

始めが肝心。 保護者対応



保護者と担任との「ズレ」

- 相談前に、実は2日間は悩んでいる
→ (いや、今、初めて聞いた話だし…)
- 連絡帳は下書きをしている
→ (返事を書く時間(ヒマ)なんてないよ…)
- そもそも気づかないなんて、そんなはずない
→ (担任だって全部見てるわけじゃない…)



始めが肝心。 保護者対応

大切なキーワードは
「気持ちに寄り添う」

保護者に熱量を合わせる

- 相談前に、実は2日間は悩んでいる
→「それは不安が大きかったですね」
- 連絡帳は下書きをしている
→返信は電話にて。その際、「詳しく教えてください」
「教えていただき、ありがとうございます」
そもそも気づかないなんて、そんなはずない
→「明日、〇〇さんから、直接話を聞いていいですか」
相談する時間を稼ぐ、親子の認識のずれを確認する
(子ども本人が不在のまま話を進めない、約束しない)



ここが
ポイント！



保護者にとって、
子どもにとって良い先生とは...



話を聞いてくれる先生

「なるほど」、「そうだったんですね」、「そういうことだったんですか」

